

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立当初よりの School Motto (スクール モットー)「Find a Way or Make One (見つけよう つくりだそう 明日への道)」のもと、「自らの手で明日への希望や目標を見だし、その希望(夢)や目標に向かって邁進する」生徒を育てる。特に「ステップ フォワード ～ 一人一人が『意欲』をもって～」を合言葉に、生徒と教職員とがともに、今在る所から未来へ向かって踏み出し、現状を目標に近づけるという意志と意欲をもって物事に取り組む。生徒の育成に当たっては、以下の3つをめざす。

- (1) 高い志と意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育むとともにそれらを達成するための環境作りを進める。
- (2) 授業・行事・部活動に臨む際の集中力と自主性をより一層高める。
- (3) 地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

そのため、学校全体として、充実した教育課程の中で生徒一人ひとりの学習意欲や基礎学力の向上、夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実、部活動及び生徒会活動の活性化、地域連携・中高連携・高大連携の充実、規範意識や人権尊重意識の向上等を中心に「学校力」を“チーム大冠”として常に全力で向上させることをめざす。

2 中期的目標

- 1 “自主・自律”の人材育成
 - (1)「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進
 - (1) 新学習指導要領をふまえ、「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善に取り組む
 - ①公開授業、研究授業、校内研修、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組む
 - ②生徒が主体的に深く学ぶ授業を増加させ、“主体的・対話的で深い学び”の実現をめざした授業改善への取り組みを進める
 - 1)「ICTを活用した授業」「生徒の表現力・発表力の向上」への取り組みについても研究を進め 平成31年度からそれぞれ生徒肯定率を毎年1%ずつ増加させる(平成30年度肯定率、各73%,56%)
 - 2)指導教諭を中心に“生徒に身についた力”の評価方法“の検討、”学習支援プログラム“の検討のため組織を立ち上げ検討会を学期ごとに行う
 - (2)「確かな学力」の育成に必要な“規範意識＝基本的生活習慣”の醸成
 - ③生徒全員が学校生活をスムーズに送るため校時を遵守する意識を高める。(7. 遅刻数3300以下を維持し続ける。4. 業間遅刻の検討をし、数値化し、業間遅刻を減らす)
 - ④校舎内外や教室の清掃・美化を徹底するとともに、校内外のクリーンキャンペーンの実施、授業環境のユニバーサルデザイン化を進め、学習が深められる環境を整える。「清掃の状況」肯定率も生徒教員ともに平成31年度からそれぞれ毎年1%ずつ増加させる。(H26年度からの肯定率 生徒35→52→59→51→58%、教職員29→21→36→47→34%)
 - ⑤自学自習習慣を身につけさせるために、図書室の開放及び自習室の検討を行う。また、集中勉強会を今年度も年4回以上行う。
 - ⑥校内での挨拶強化のため「こころの再生」にかかる挨拶運動などを行う
 - 2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実
 - ⑦学年を迫うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取り組みをホームルーム活動、総合的な学習の時間等を通じて教育活動全体で行い、キャリア教育の充実をめざす。
 - ※ 学校教育自己診断における「キャリア教育充実度(生き方や進路を考える教育)」の生徒の肯定率を87%に引き上げ2020年度以降も毎年1%ずつ増加させる。
 - ⑧生徒の希望進路実現への取り組み
 - 1) 生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、実現する。
(同窓生、地域の方等を講師として職業意識を高める進路講演会を行う。スケジュールの早期提供、模試の事前事後指導。面接練習の強化。志望理由書作成の添削など)
 - 2) 年度当初の4年制大学進学希望を維持させる指導及び確実な就職指導の体制のもと2020年度以降も、生徒の希望進路実現率を4年制大学90%、就職100%を維持し続ける。
 - ⑨国際理解教育と英語教育の推進
 - ア 平成26年度よりの他の府立高校と合同での国際交流研修を継続。これからも毎年4～5人の参加者を確保し、活性化をはかる。
 - イ 近隣の大学や地域への留学生と交流することにより、海外からの留学生との交流も視野に入れた国際交流を検討する。
 - ウ 生徒が実践的な英語力を向上させるために、英検またはGTECの受験を奨励し2020年度以降も受験者を毎年3～5名は増加させ、合格のための講習をおこなう。
 - 3 部活動の活性化及びクラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上
 - ⑩クラブ加入の促進並びに教員と生徒の生活の質の向上に取り組む
 - ア 1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する
 - ※ 1年生のクラブ加入率・退部率(それぞれ70%以上、7%以下)をめざし、2020年度以降も毎年加入率は1%以上の増加、退部率は1%の減少をめざす。
 - イ 部活動における練習の効率化を通じて、生徒及び教職員の生活の質の向上をはかる
 - ⑪クラブ員及び生徒会のリーダーシップによる行事、部活動、生活規律向上などを全校的に主体的・協働的に取り組む
 - ア クラブ代表者会議や部活動集会をクラブ代表及び生徒会を中心に定期的に開催し、部長をはじめ、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。
 - イ クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。
 - ※ 学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率をそれぞれ75%、80%以上をめざす。
 - 4 人権教育と教育相談機能のさらなる充実
 - ⑫人権教育の充実を図り、年度ごとに時勢に即した内容をもとに計画に取り組み、人権意識の向上を図る。
 - ※ 学校教育自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率80%を継続する。
 - ⑬教育相談委員会や特別支援委員会の機能とそれが行う研修をともに充実させ、障がいがある生徒や課題を抱える生徒への合理的配慮を行い、また、自立を支援できる体制をより一層確立する。
 - ア カウンセリングマインドをもって生徒に接することにより生徒支援について一層の徹底をはかり学校全体での情報共有を行う。
 - イ SC2人体制を維持し、相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。
 - ※ 学校教育自己診断における「学校生活についての指導の納得」、「先生は生徒がいじめや困っていることに真剣に対応」「担任以外にも相談室等で気軽に先生やSCに相談することができる」の生徒の肯定率をいずれも80%以上をめざす。
 - 5 広報活動と地域連携の充実
 - ⑭入試改革による影響を的確に把握しながら、“チーム大冠”として学校をあげて、学校説明会・中学校訪問と広報活動の充実を図り、地元中学校との相互連携も深める。
 - ア 学校説明会・中学校訪問については、地元地域を重視しつつ学区撤廃による影響を的確に把握しながら、中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。
 - イ 学校訪問と学校説明会、クラブ見学会の内容の充実に加え、地元中学校と地元地域の府立学校の連携会議の導入をはかる。
 - ウ ホームページ、メールマガジン、校内掲示、配付物等を通じて保護者、生徒、中学生に大冠高校の情報と魅力をより効果的かつ継続的に発信し、理解を深める。
 - ⑮地域連携の取組み
 授業、クラブ、生徒会等において、地域と積極的に交流機会を増やし、本校の教育活動についての理解を深めてもらう。
 - 6 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取組み
 - ⑯防犯・防災体制を日常化し、安心安全な教育環境を整え、教員の危機管理意識を高める。
 - ⑰授業アンケート結果を教科会議において分析、改善策の検討等授業力向上を図る。
 - ⑱新規採用教員・若手教員に対して、定期的に校内研修(管理職・首席・指導教諭を中心として)を行いOJTにつなげ、教員の資質向上をはかる
 - ⑲全校一斉休日、ノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、部活動と教職員のバランスを考えながら、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>(全体として)</p> <p>○肯定率3%以上アップ項目数：生徒19(10)/28、保護者5(1)/26、教職員20(3)/36 肯定率3%以上ダウン項目数：生徒1(1)/28、保護者4(0)/26、教職員11(26)/36。 で、昨年より、生徒・保護者・教職員ともに肯定率の項目が増えている。()が昨年 特に生徒は「学校へ行くのが楽しい」82→86%、「授業はわかりやすく楽しい」67→76%と 本校での生活・授業に満足していることがうかがえる。 次年度の課題は、生徒には、授業以外での肯定率を増やすことである。また、教員の自己肯定率が高く、学校運営 関係での肯定率が低いことを改善することである。</p> <p>(学習指導)</p> <p>○授業に関して、 生徒の生活基本調査「授業への満足度」は69.6→76.2%。自己診断生徒の肯定率は「授業が分かりやすく楽しい」67→76%、「発表の機会がある」の56→63%、「ICTを使う機会がある」73→77%と先生方の授業改善によって肯定率が上昇している。 今年度、パッケージ研修を取り入れ、重点目標の授業改善がうまく軌道に乗ったのではないかと考える。ICTの活用に関しても、先生方の使用の伸びが見られるが、先生方の負担を減らすためにも機器設備の充実をはかりたい。 「実験・実習等の授業の取組みがある」については50→50%(前年度→今年度)と変化なく、更なる授業の進化を求めて、次年度は指導法の研修に努めたい。また府教委へ機器の充実をお願いしていきたい。</p> <p>○「学習評価の納得」に関して、(前年度→今年度)比較すると、 生徒88→87%、保護者は「テストやその他を含む多面的評価」83→80%と減少している。 「評価及び学習形態の多様化」についても各々83→80%、 となっており、評価について、観点別評価など研修を進め、生徒の実態・ニーズに沿って、納得のいく評価を進める必要がある。 (生徒指導及び進路指導等)「生活是正指導」</p> <p>○生徒指導 自己診断における肯定率、「生活規律」に関する項目、「先生の指導への納得」生徒77→79%、保護者83→87%、生徒の「基本的生活習慣の確立に力」81→82%と微増、懲戒件数は13→7とわずかながら減少。 以上から生活指導は「生徒の自己効用感」を尊重する指導方針を続ける必要がある。</p> <p>○進路指導 生徒肯定率「進路や生き方を考える」89→90%、「進路について適切な情報提供」86→90%、保護者肯定率「進路や職業の適切な指導」83→85%と いずれも昨年を上回っている。</p> <p>○生徒会・部活動 生徒肯定率「学校行事参加の工夫」85→90%、「部活動に積極的に参加」 85→87%、「生徒会活動の活発さ」73→80%といずれも昨年を上回っている。 また、保護者肯定率「子どもの学校行事への参加の工夫」93→92%、と今年も高い評価を得た。</p> <p>○人権 生徒肯定率「人権の大切さを学ぶ機会」82→89%、「いじめへの対応」80→83%、保護者の 「人権意識を育てる指導」79→83%、と高い評価を得たが、教員の「人権尊重、指導について教職員ではなしあっている」は71→65%となった。教職員の忙しさのため、話し合う時間が確保出来ていなかったのであろう。生徒・保護者からの高い評価に今後も満足せず、啓発に努め、教員の時間の使い方についても検討したい。</p> <p>(学校運営)</p> <p>○「校長は学校を良くしようとしている」 生徒肯定率69→76%、保護者83→82%、であるが、教職員76→53%と大幅に低下、教職員には、校長の学校改革の姿勢が理解されていないようで、求心力の回復が求められる。</p> <p>○「地域との交流について」 生徒64→67%、保護者70→70%、教員67→69%、活動の周知について校内的なコミュニケーションや周知方法のさらなる改善の必要性がある。</p> <p>○「防災教育について」 生徒88→84%となった。数値的には教育の肯定率が高いが、アンケート実施時点では、昨年度の身に迫る自然災害がなくわずかに下がったので、危機管理意識の教育の必要性を感じる。</p> <p>○教育活動 保護者「教育方針の伝達」82→84%、「きめ細かな意思疎通」保護者85%→85%、教職員78→84%など学校教育自己診断の肯定的な回答が多かった。</p> <p>○今年度の後期に重点的に取組んだものの1つである「清掃の状況」 を平成26年度からの学校教育自己診断の肯定的回答の推移を表すと、生徒35→52→59→51→58→66%、教職員29→21→36→47→34→53%となり、大幅な上昇であった。次年度も引き続き、重点項目として清掃の徹底、きれいな学校・学習環境を進めたい。</p> <p>○広報活動 「HPとメルマガの利用度」が教職員86→92%、保護者57→55%。で教職員の自己肯定率が高い。しかし、保護者の数値が低いので、その認知度向上と利用促進のため取組みを促進する必要がある。</p>	<p>第1回学校運営協議会(6月3日)</p> <p>① 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動への工夫。・T-NETの活用の工夫など授業以外のところでの工夫があればさらに良くなる <p>② 授業見学をして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書などにも先生方の工夫を感じた ・生徒が集中し、生徒の取組みがよくなっている。 ・授業のユニバーサルデザイン化について、基本的な取組みを徹底していることが感じ取れた。 <p>第2回学校運営協議会(11月8日)</p> <p>① 学校経営計画の進捗状況、資料などより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は良い形で進んでいると思う。これからは、「チーム大冠」で上手く行っているところをまとめ、生徒に向けてもアピールし推進させていくことが必要である。 <p>② 授業見学をして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領による授業を進めていくうえで、学校として最低限取組むべき内容を教職員みんなで決めることができればよい。 ・生徒に考えさせ、それぞれの考えを共有させる取組みは、色んな考え方に触れることができるとも良い。 ・達成感や心に残る授業を相互に見ることは大切なので授業見学を活用して欲しい ・全体的に机上に荷物があすぎ。学習環境の低下は荒みになり、集中力の低下につながるため、改善すべきである。 ・先生方のそれぞれの工夫が感じられる。 <p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28期の吉田大喜さんの横断幕がとても嬉しかった。(生徒や卒業生の頑張りを評価し、大切にしている学校がいい) ・PTA活動や発表に先生方も積極的に参加していただき、各校の取組みなどの情報を共有できればよいと思います。 <p>第3回学校運営協議会(2月21日)</p> <p>学校運営協議会委員から学校への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した学校運営ができています。 ・とても安心できる学校だと感じます。 ・大冠高校の取組みが地域の信頼に繋がっていると思います。 ・本年度の取組内容及び自己評価の中で、○や◎のついている内容をクローズアップさせれば、さらに学校が良くなるのではないのでしょうか。 ・先生方の取組みの中で、良いところをたくさん集めてそれを校内研修で共有していただきたい。 ・授業力向上、改善の取組みで教員が同じ方向に向くことができています。 ・学校の中心は子どもたちであるが、先生方のモチベーションの向上が大きいと感じました。校内研修や中学校への授業見学を通して先生方が授業づくりにシフトしているのがとても良く、大冠高校のやる気を感じることができ地域に誇れる学校になっています。 ・授業におけるグループワークやペアワークが学力向上や教え合いに繋がり、結果として学ぶ意欲に繋がっていると思います。 ・クラブ満足度を生活基本調査に入れてみてはどうでしょうか。 ・クラブよりアルバイトを選ぶ生徒の数がクラブ加入率に影響を及ぼしているが、ダンスなどの習い事をしている生徒が増えていることも一因ではあります。 ・生徒の多様性を大切にし、クラブ活動の充実が大事であると思います。 ・国際交流がかなり浸透しているので今後も継続していただきたいと思います。前年度参加者の体験談を直接聞かせる場を設けてはどうでしょうか。 ・外国人講師を含め国際交流参加者を中心にした英語を積極的に話す場(しゃべり場)を設けてはどうでしょうか。 ・高校生活を通して何かに取り組むきっかけや気づきを与えることが大切であると思います。 ・地域のスポーツイベントなどのボランティアに積極的に参加していただきたいです。ボランティアもグローバル化しており、とても良い経験になると思います。

府立大冠高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自主・自律の人材育成	1-1「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善への取組み ア 生徒の主体的な学びを実現するための授業改善の取組み イ 公開授業を活用した授業改善の推進 ウ ICTを活用した授業の推進 エ カリキュラムマネジメントの確立 1-2「確かな学力」の育成に必要な規範意識の醸成 ア 登校時に校門での一斉遅刻指導を継続する。 イ 業間遅刻について検討し授業遅刻を減らす ウ 校舎・教室内外の清掃・美化による環境整備と授業環境のユニバーサルデザイン化 エ 図書室の開放・自習室の検討・集中勉強会の開催 オ 生徒指導部、生徒会の連携による挨拶運動の強化	1-1 ① ア 指導教諭と若手教員が主となり、有志教員や生徒も参加した授業研修を行い、充実したものとす。 ・授業改善に資するための教員の校内研修を充実させる。 ① イ 公開授業（4月、6月、11月）を活用し、教員・保護者・生徒の3者からの意見を集約し、授業改善を推進する。 ②-1 ウ ICT活用等を活用するなど生徒の授業アンケートの「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業内容に、知識・技能が身に付いたと感じている」の項目のレベルアップをはかる。 ②-2 エ 指導教諭を中心に授業研修後の評価方法の研究を行う 1-2以下の事を行う、 ③ ア 生徒指導部を中心に輪番体制で毎日、校門での一斉遅刻指導及び身だしなみ指導を行う。 ③ イ 生徒指導部、教務と連携し、業間遅刻検討会を行い、対処法を考える。 ④ ウ 日々の清掃活動の徹底をはかり、学習環境を整えかつ授業時の環境のユニバーサルデザイン化を行う。 ⑤ エ 図書室の開放時間の延長、図書室での自習検討・自習室の検討・集中勉強会5回開催 ⑥ オ 朝の生徒による挨拶運動を行う。 生徒会中心に校内挨拶運動を行う。	1-1 ① ア・授業研修の取組み状況についてホームページに掲載。 ・校内研修の毎学期実施、年3回以上。 ① イ・公開授業(授業研修含む)のコマ数70以上。 ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」68%(平成30年度67%)、自己診断における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率68%(平成30年度67%)。 ② ウ・自己診断における「授業へのICT活用の機会」の生徒の肯定率74%以上(平成30年度73%)。 エ. 還元研修 年1回以上 1-2 ③ ア・年間遅刻合計回数3100以下。(平成30年度3133) ③ イ・業間遅刻数を把握、検討 ④ ウ。「清掃が行き届いている」生徒・教員それぞれ59%以上、35%以上(平成30年度58%、34%) ・「クリーンキャンペーン」年1回以上行う ・清掃週間を年1回以上行う ④ エ・図書室での自習の状況把握 ・集中勉強会の年4回開催 ⑤ オ 生徒による朝の挨拶運動を年3回以上行う挨拶週間を年1回以上行う。	1-1 ① ア・授業研修の取組み状況についてホームページに掲載。学校教育自己診断の保護者の評価では、「ホームページを利用する」、「学校行事やPTA活動、授業参観に参加する」の肯定的評価がそれぞれ(2%、3%)UPしている。(○) ・校内研修実施7,10,12,1月に実施(○) イ・公開授業(授業研修含む)のコマ数80回以上実施(◎) ・生活基本調査での生徒の「授業への満足度」76%、自己診断での生徒の「授業が分かりやすく楽しい」肯定率76%。さらに授業改善を行い生徒が主体的に参加できる授業をすすめていきたい。(◎) ① ウ・自己診断における生徒の「授業へのICT活用」77%。さらなる授業への活用を検討したい。(○) エ. 12月と1月の2回の授業研修は、授業をした、先生方のビデオを見ながらの字授業の仕方・評価の仕方などの還元研修を行った。(◎) 1-2 ② ア. 年間遅刻合計 3826回(△) イ. 把握できず(△) ④ ウ・「清掃が行き届いている」生徒・教員それぞれ66%、53%(◎)。さらに清掃の徹底をはかり、きれいな学校・学習環境の充実をめざしたい。 ・PTA保護者も巻き込んだクリーンキャンペーンを行った(○) ・清掃週間して1回年度末に行い、清掃日として各定期テスト前に行った。(◎) ⑤ エ・集中勉強会を年5回行った(◎) ⑥ オ・朝の登校挨拶週間を春、秋、年末と年始と年4回設け、PTAと教員だけでなく、クラブ員も交代で校門での挨拶をした(◎)
2 夢と志 目的意識を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実	⑦ キャリア教育の充実 学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取組みを実施 ⑧ 生徒の希望進路実現への取組み ア 進学指導方策の検討 イ 具体的内容の検討 ⑨ 国際理解教育と英語教育の推進 ア 国際理解教育活動の継続 イ 今後の方向性の提示 ウ 英検及びGTEC受験の奨励	⑦ 進学も含めた将来の生活設計を考えるため、1年次よりキャリア教育の充実を図る。 ③ ア 進路指導部と学年が協同し、計画的な進路講習を計画するなど、3年間を見据えた進学指導のさらなる充実を図る。 イ 生徒の希望進路の実現に向け、担任及び教科で具体的な方策を検討し、充実を図る。 また、生徒に記録する習慣を身に付けさせるよう個人で手帳を持たすなどの取り組みを行う ⑨ ア 国際交流研修の推進として、近隣の府立4校合同でオーストラリア交流研修を継続・充実をはかる。 イ HPや文化祭等での発表を充実させる。 ウ 英検及びGTEC受験を推進し、必要な生徒には合格のための補講を行う。	⑦ ・自己診断における「将来や進路について考える機会」の生徒の肯定率87%以上。(平成30年度86%)。 ⑧ ア 生徒の希望進路実現率を4年制大学など、進学率90%以上(平成30年86%)とし、就職100%(平成30年度100%)を維持する。 イ 「集中勉強会」の参加生徒増及び内容の充実。5回実施。のべ生徒参加者365人以上。(平成30年度358人) ⑨ ア 国際交流研修の参加や内容の充実を図る。参加者4人以上を維持。参加校全体での研修と成果発表会を実施する。 イ 派遣先での交流をHPで公開するとともに文化祭等で発表し、公開する。 ウ 校内会場受験を実施し、50人以上の英検及びGTEC受験者を確保する。(平成30年度GTEC受験者数6人)	⑦ ・自己診断における「将来や進路について考える機会」の生徒の肯定率90%。「進路について適切な情報提供」86→90%、保護者肯定率「進路や職業の適切な指導」83→85%といずれも昨年を上回り、進学も含めた将来の生活設計を考えるためのキャリア教育の充実を図ることができた(○) ⑧ ア 生徒の希望進路実現率に関して4年制大学をはじめとする進学実績76%就職率100%を現在維持。進路全体の満足度95%進学実績(△)、就職率(◎) イ 「集中勉強会」年5回実施。参加生徒増及び内容の充実。参加者のべ人数262人(1回～5回)。目標設定値が大きかったために目標に達せなかった上に勉強会の参加人数が昨年より減少した。(△)しかし、昨年より勉強会1回増やした(○) ・1年、2年生徒全員に手帳を持たせ、生徒の希望進路の実現に向け、担任や学年団に記録や、見直しを立てて生活を行う習慣を指導(◎) ⑨ ア 国際交流研修の参加や内容の充実を図る。参加者7人。参加校全体での研修はできなかったが、文化祭での発表・ホームページ掲載のための研修を実施した。(○) イ 派遣先での交流をHPで公開するとともに文化祭等で発表し、公開した。(○) ウ 英語検定、受験者19人で、英語に関する外部試験受験者は昨年の数の3倍になったが目標設定値が大きかったために目標に達せなかった(△)
3 部活動の活性化及びクラブ員及び生徒会のリーダーシップによる生活規律の向上	⑩ クラブ活動の活性化 ア 1年次当初のクラブ加入促進の取組み イ 指導者の確保と校内での重点クラブの指定 ウ 活性化策と活動の効率化の検討 ⑪ クラブ員及び生徒会のリーダーシップによる生活規律の向上 生徒自ら生活規律の向上を図る方策の検討	⑩ ア・1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。 イ・部活動代表者会議による重点クラブの指定や会議内容の広報に努め、部活の活性化に努めるとともに人的及び予算面で配慮し、効果をあげる。 ウ 活性化策(退部率の減小案)及び部活動の練習の効率化を検討 ⑪ ・クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。	⑩ ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ70%以上、5%以下(平成30年度68%退部率10%) イ・予算の傾斜配当と活動場所の最適化を行う。 ウ・部活動集会以での生徒要望を集約するとともに部活動の効率化を校内で論議する。(各学期1回計3回以上実施の継続と教員間での論議の開始) ⑪ ・部活動集會等において、生徒による生活規律の向上を検討する。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者のいずれも肯定率83%以上(平成30年度は81%、83%)を達成する。	⑩ ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ68%、7.3%(△) イ・予算の傾斜配当と活動場所の最適化を行った。特に体育館系クラブに配当。(◎) ・熱中症対策、自然災害修復など重点配当を行った(◎) ウ・クラブ代表者会議(部活動集會)を各学期実施。教員間での顧問会議も5回実施(○) ⑪ ・クラブ代表者会議(部活動集會)等において、生徒による生活規律の向上を検討。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者のいずれも肯定率77%、89%。(△)

府立大冠高等学校

4 人権教育と教育相談機能の充実	<p>⑫人権教育の改善と充実 本校として時勢に即した人権教育計画を策定と改善・充実</p> <p>⑬教育相談委員会や特別支援委員会の機能のより一層の充実 ア 教職員へのカウンセリングマインドの周知と徹底 イ SC の相談日回数の確保及び相談室の案内と利用の促進</p>	<p>⑫ ア・人権教育企画委員会（略して「人企委」）の議論を活性化し、本校として時勢に即した年間計画を策定し、今年度は、「自尊感情の醸成」をテーマに実践する。</p> <p>⑬ ア・カウンセリングマインドをもって生徒に接し、生徒—教職員相互の信頼関係強化を一層徹底する。そのための情報共有をはかる。 イ・SC の相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。</p>	<p>⑫ ア・自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率 83%以上。（平成 30 年度生徒 82%、教職員 71%）</p> <p>⑬ ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率 85%以上。（平成 30 年度 85%） イ・SC の教育相談内容を研修や個別相談により充実をはかり教職員で情報共有。</p>	<p>⑫ ア自己診断「人権教育充実度」の肯定率 ・生徒 89% (◎) 保護者 83% (◎) ・教職員 83%。(◎)</p> <p>⑬ ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率 85% (○) イ・SC の教育相談内容を研修や個別相談により充実をはかり教職員で情報共有し、保護者の相談もあり、SC のべ 23 回相談日 (◎)。</p>
5 広報活動と地域連携の充実	<p>⑭チーム大冠として学校全体で広報活動を行う ア 学校説明会・中学校訪問の充実と連携会議の導入 イ 広報内容の充実 特に HP 継続的な更新及び配付物による教育活動の公開</p> <p>⑮地域連携の取組み 授業、クラブ、生徒会等における地域連携への取組みの強化</p>	<p>⑭ ア・入試改革による影響を的確に把握しながら、地元高槻を中心に枚方方面の中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。 イ・広報活動を効果的なものにするためのコンテンツの充実を図り、また HP の更新に努め、本校の教育活動を公開する。</p> <p>⑮授業、クラブ、生徒会等において、地域との交流機会を増やすとともに、HP、紙媒体、校外での掲示等での広報に努め、本校への理解を深めてもらう。</p>	<p>⑭ ア・第 1 回学校説明会への参加者数 300 人以上の維持。クラブ見学会の継続及び学校見学会のあわせて 3 日以上実施。（平成 29 年度 340 人、第 2 回学校説明会 227 人。部活動見学会・学校見学会あわせて 3 日実施）。地元中学校と府立学校の地域連携会議の 2 回参加。 ・入学実績をもとに高槻市を中心に枚方、寝屋川までの中学校への訪問をのべ 60 校以上を継続、中学校の要望を聞き取り、反映する。教育産業への働きかけものべ 20 校以上を継続する。 イ・HP を担当するため教職員のチームで内容充実と年間 60 回以上の更新を継続する。</p> <p>⑮自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率 65%以上（平成 30 年度 64%）。</p>	<p>⑭ ア・学校説明会・体験会をオープンスクールと名称変更し、中学生へのアピールを実施。参加者数（中学生 597 名、保護者 228 名）。地元中学校と府立学校の連携会議を 2 回実施し連携を深めた。(○) ・入学実績をもとに高槻市を中心に枚方、寝屋川までの中学校への訪問をのべ 60 校以上実施、中学校の要望を聞き取り、連携調整。教育産業への働きかけものべ 20 校以上を継続(○) イ・HP を担当するため教職員のチームで内容充実と見直し、年間のべ 140 回更新 (◎)</p> <p>⑮自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率 64→67% (○)</p>
6 教員の資質向上と働き方改革に向けた取組み	<p>⑯防犯・防災体制の日常化</p> <p>⑰授業アンケート結果の分析</p> <p>⑱若手教員対象研修を行い OJT につなげる</p> <p>⑲働き方改革による教員の意識改革</p> <p>⑲教員の本校への学校教育自己診断の向上</p>	<p>⑯防犯・防災体制を日常化し、危機管理マニュアルの改定など、安心・安全な教育環境を整える。</p> <p>⑰教科会議の定例化、議事録の提出などを行い、授業に関する分析を行う。</p> <p>⑱若手教員に対して管理職・首席・指導教諭中心の対話形式校内研修（しゃべり場など）を継続して行う。</p> <p>⑲全校一斉退庁日、ノークラブデー、クラブ休日日数の確保、学校休業日の確保などの周知徹底を図るとともに管理職による指導・助言などを徹底する。</p> <p>⑲校長の求心力の向上をめざし、教員の本校への学校教育自己診断・校長への評価の向上をめざす。</p>	<p>⑯ 5 月中に完成、随時見直し。</p> <p>⑰授業アンケートにおける評価の平均値 3.1 以上を維持（平成 30 年度 3.1）</p> <p>⑱しゃべり場研修を年 3 回以上行う（平成 30 年度 2 回）</p> <p>⑲年間 800 時間以上の超過勤務を有する職員を 8 人以下にする（H30 年度 9 人）</p> <p>⑲教員の本校への学校教育自己診断での肯定率 3%以上ダウンの項目を 25/36 以下にする（平成 30 年度 26/36）</p>	<p>⑯ 防犯確認メール登録を教職員・生徒に促し、年 3 回の防災訓練の時に確認メールを配信した (◎) ・洪水を想定した防災訓練を初めて実施（例年 1 回目は火事、2 回目は地震であったが 3 回目の洪水を付け足した）</p> <p>⑰授業アンケート（興味関心、知識技能）数値平均 3.3 (○)</p> <p>⑱パッケージ研修を取り入れ、しゃべり場研修と連動させ、年 3 回行った。(○)</p> <p>⑲ 6 人に減少(◎)</p> <p>⑲ 11/36 (◎)</p>